

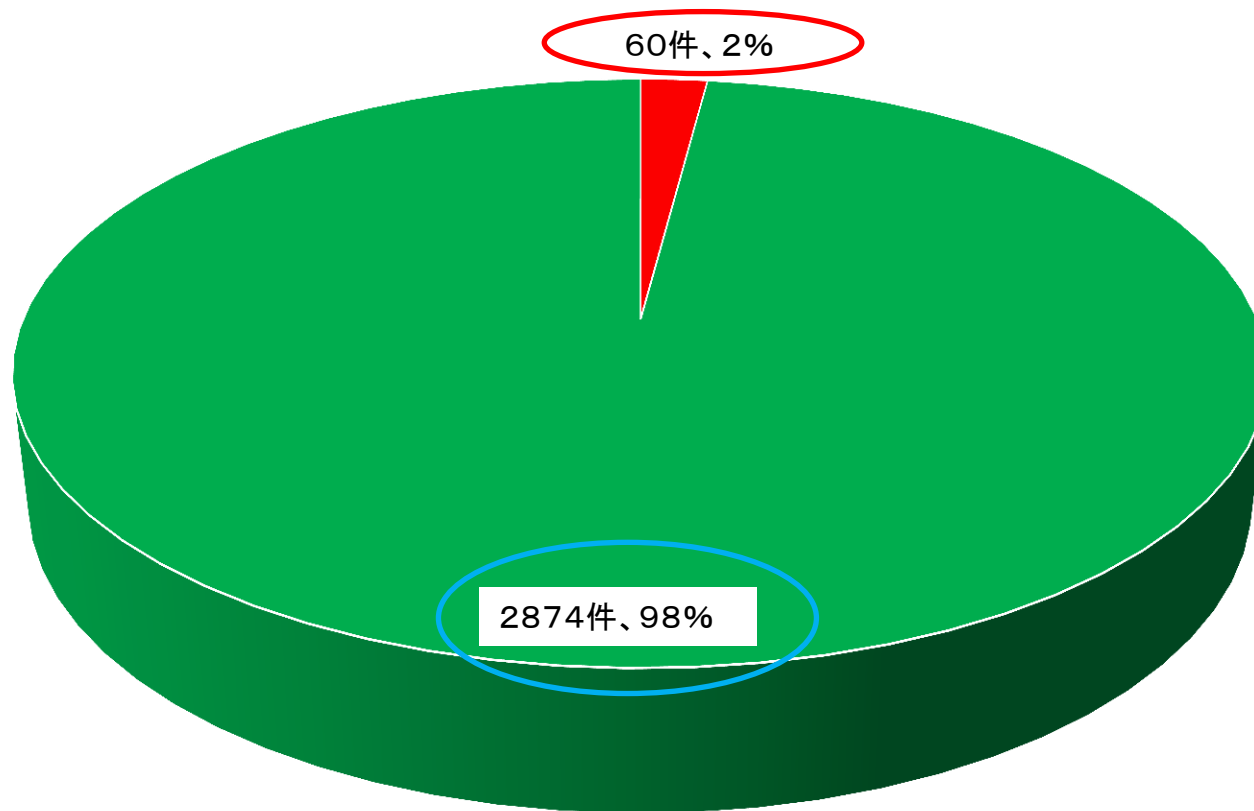
テロ情勢・対策

平成29年5月27日

在ケニア日本国大使館

領事・警備班

凶悪犯罪発生状況（犯罪とテロの比較：2016年）



■ Terrorist Activities ■ Crime

(January 2016~December 2016)

アル・シャバーブ (AS)

●現勢

- ・7,000人以上(詳細の現勢は不明)

●現況

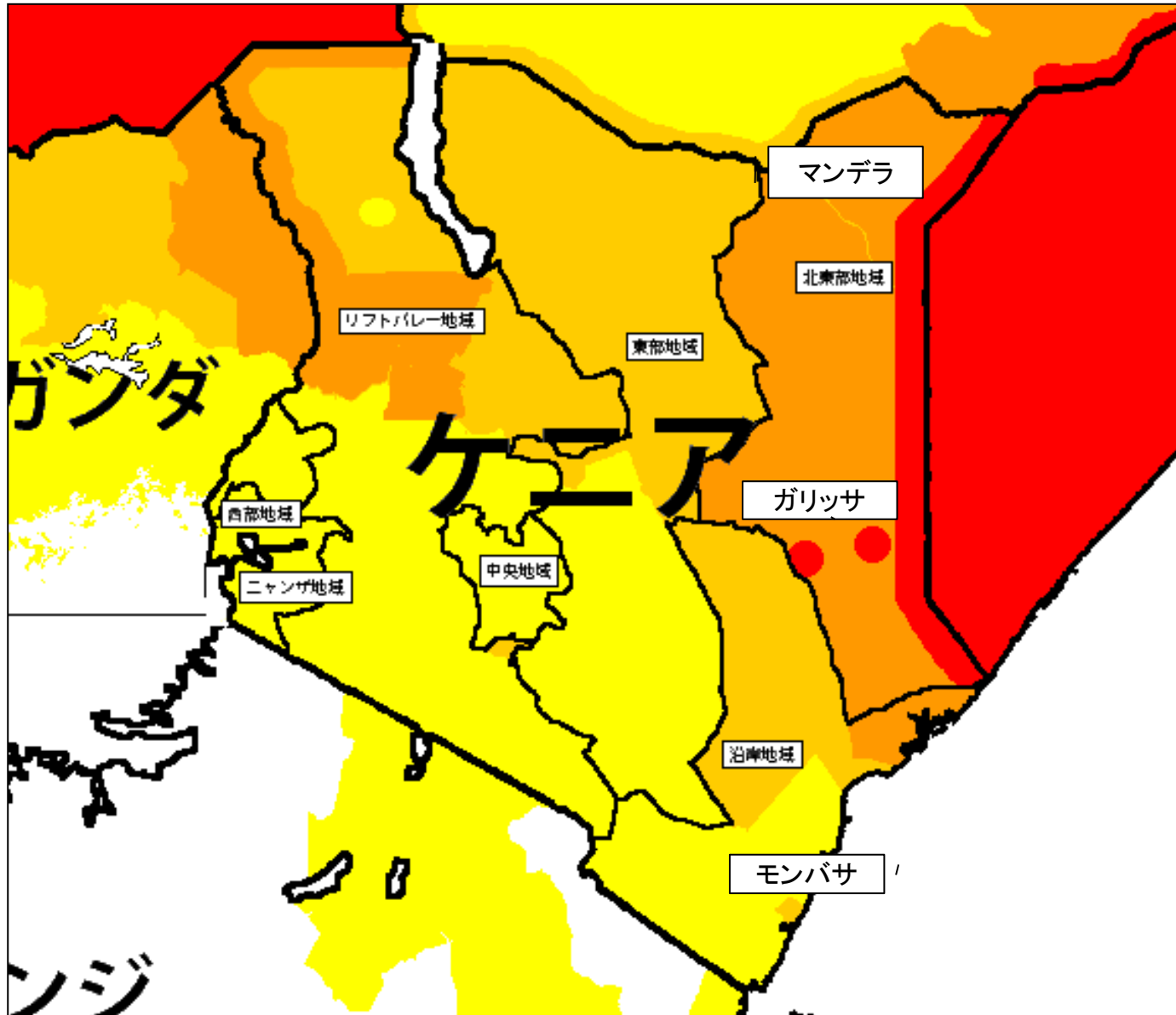
- ・積極的に活動、主な標的はケニア及びソマリアの警察、軍及び政府関係施設
- ・大規模なテロを実行できる能力を有する
- ・ソマリア・AS戦闘員のケニア入りが増加
- ・ケニア北東部、沿岸部におけるテロの脅威の増大

●最近のケニア国内における動向

- ・3月 2日:北東部ガリッサ郡における教師3名の誘拐
- ・3月 7日:沿岸部ラム郡におけるケニア軍兵士に対するIED爆弾による攻撃
- ・3月10日:北東部及びモンバサにおけるAS戦闘員15名の逮捕
- ・4月14日:北東部マンデラ郡及び沿岸部モンバサ郡におけるAS戦闘員2名の逮捕
- ・5月16日:北東部ガリッサ郡における民間人被害のIED爆弾による攻撃
- ・5月15日:北東部マンデラ郡における警察関係者に対する襲撃事件

※当地治安機関による

テロ攻撃・テロ情報関連地域

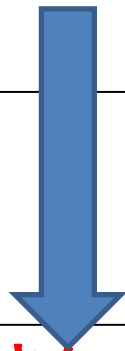


ASによるソマリア領内の ケニア軍キャンプ襲撃事件(2017.1.27)



ASによるソマリア領内のケニア 軍キャンプ襲撃事件(2017.1.27)

- ・日時 : 2017年1月27日(金)早朝
 - ・場所 : ソマリア南部Kulbiyow
 - ・概要 : AS戦闘員が上記場所ケニア軍キャンプを襲撃。
 - ・被害 : ケニア軍兵士57名死亡(報道ベース)
ケニア政府は具体的な死者数を公表していない。
- ・ ASによる犯行声明あり。



ASは、引き続きケニア軍等のハードターゲットを襲撃可能な兵力を保持している

イラク・レバントのイスラム国 (ISIL)

●ケニアにおける現勢 不明

●現況

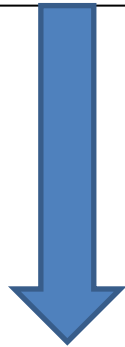
- ・ナイロビ郡、モンバサ郡及びキリフィ郡で活動の様様
- ・インターネットを使ったリクルート活動の活発化
- ・**ISIL関係者の逮捕(沿岸部マリンディ等)**

●最近のケニア等における動向

- ・マリンディ・医療関係者2名の逮捕(2016.8.28)
- ・**モンバサ中央警察署襲撃事件**で犯行声明(2016.9.11)
- ・**米国大使館警戒警察官襲撃事件**で犯行声明(2016.10.27)
- ・南スーダンで中東及び北アフリカのISILに合流しようとしたケニア人3名逮捕 (2017.5.9)

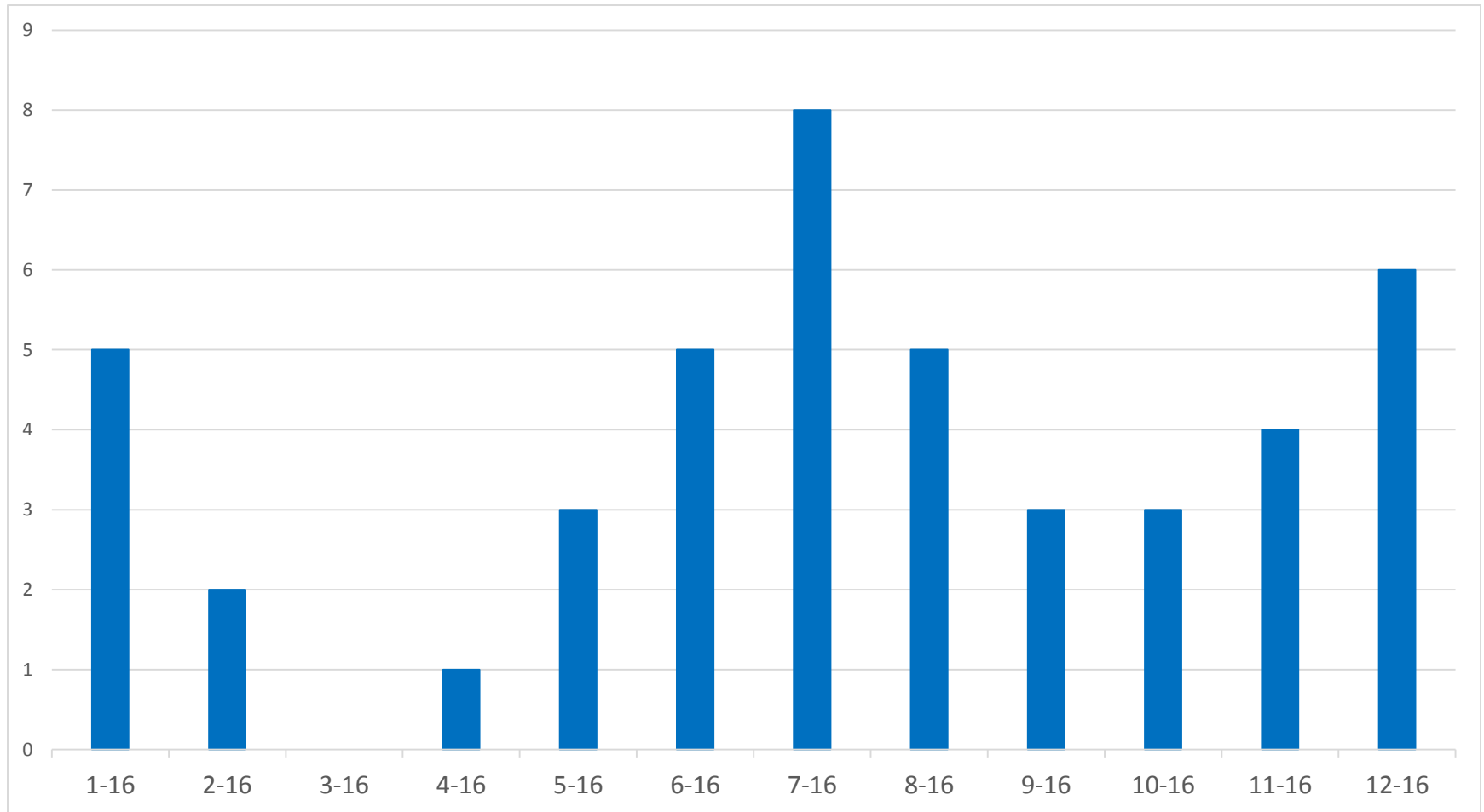
ISIL関係者による米国大使館 警察官襲撃事件

- ・日時 : 2016年10月27日(木)
午後4時30分頃
- ・場所 : ナイロビ・ギギリ地区
米国大使館領事部入口付近
- ・概要 : ソマリ系ケニア人1名が警戒中の警察官1名をナイフで襲撃したが、射殺される。
- ・被害 : 警察官1名が重傷。
- ・ISILによる犯行声明あり。



ISILのインターネット等に感化されたローン・ウルフによるテロ攻撃の可能性が高い → どこでも起きうるテロ。

テロ事案の発生件数(月毎)



(January 2016 ~ December 2016)

最近6か月のテロ情勢の傾向

- ◎ 5割以上が、北東部で発生
- ◎ ケニア人AS戦闘員のケニア帰還が増加

今後のテロ情勢の見通し

- ◎ 選挙に乗じたテロに警戒が必要
 - ◎ ラマダン期間中のテロに警戒が必要
- ISILの機関誌でもテロを呼びかけている

テロリストが狙う記念日・祝日

1. 5月26日頃～6月25日頃：ラマダン
2. 6月25日頃：イード・アル・フィットル
3. 6月1日：マダラカ・デー（白昼の発砲）
4. 8月8日：ケニア総選挙
5. 8月7日：米国大使館爆破テロ事件（1988年）
6. 9月1日：イード・アル・アドハー
7. 9月21日：ウェストゲート襲撃事件（2013年）
8. 10月16日：ケニア軍ソマリア侵攻（2011年）
9. 11月28日：モンバサ同時テロ事件（2002年）
10. 12月24日：クリスマス

テロ攻撃のターゲット

1. 政府関連施設
2. 軍・警察関連施設
3. 外交団、国際機関施設
4. 西側権益施設
5. ショッピング・センター、レストラン
ナイトクラブ、イベント会場、観光施設、モスク
キリスト教会、ホテル、大学・教育施設
6. 航空機・空港、列車・駅など交通機関
7. 政治集会

テロ攻撃への心構え

- ◎ テロの脅威は、日常生活に潜んでいる
- ◎ セキュリティが高い施設でも、テロは発生する
- ◎ **日本人もテロ攻撃や誘拐の標的**
- ◎ 爆弾・銃器を使ったテロ事件が今後も発生する
可能性が高い

テロ攻撃を意識しながら、生活しなければならない

テロ攻撃からのリスク軽減策

1. マタツに乗らない
2. ショッピング・モール利用時は警戒を
3. 買い物は、人で混み合う時間帯を避ける
4. 正面エントランスでの待ち合わせを避ける
5. セキュリティの高いホテルを利用する
6. 不審な人物発見時は、その場から離れる
7. 爆発音・銃撃音を聞いたら・・・
直ちに伏せる → 柱・壁などに身を隠す → 現場から退避
8. テロ現場に近付かない(第2波攻撃のおそれ)
9. テロ事件発生時は、外出を避ける(同時多発テロのおそれ)

在留邦人の皆様へ

ケニアで生活する私達の日常生活には、テロが発生するリスクがあることを認識し、**テロ攻撃からのリスク軽減策を日々実践**することが大切です。